

第7回子ども部会

日 時 平成23年2月14日（月）午後1時

場 所 川崎区役所7階第3会議室

午後 1時 開 会

出席者（敬称略）

委員 4人

朴栄子、石渡勝朗、鈴木真、宮崎とみ子

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介、退任委員・後任委員の紹介>

2 議 題

（1） 課題解決策について

部会長 資料1に基づいて現状の確認をしたいと思いますので、事務局から資料の説明をお願いします。

事務局 <資料1、資料2に沿って説明>

部会長 現状としては5つの課題が出てきているという形で、今後1年でこれを具体化しないといけないというところでは、きょうは1年間をスパンに置きながら具体的な話ができればいいと思います。

この解決を実行していくというところで、出前講座のことを早目に動かさせていただきました。子どもの健康を考えるというところでは中学校の協力を得ないといけません。学校というのは4月に動くともうカリキュラムが決まっているのでだめですという返事をいただくことが多いので、この2、3月が勝負ということで、事務局のほうにお願いをして、まず健康に関する出前講座をやろうと思っているのでモデル校になってくれませんかという説明を校長会で一度したほうがいいのかということで、文章をつくってみました。

それから地域保健福祉課がもう既に要請があると学校に出向いて授業をしているという実績があるので、それをもう少し大きくするとか、11月の子育てフェスタで食育にかかわっていらしたヘルスマイトというグループとか、東京ガスでも食育の出前講座をやっているの、そういうところの力をかりながら健康に関する出前講座をしますということ、これを3月2日の校長会で説明します。

たばこの害と食育と歯の大切さ、大きく3つのテーマで要請があったら、保健師なり栄養士なり歯科医師が行って授業をしますということです。

予防接種については2年間とか1年間という期限が決まっているので、どのテーマのときにも予防接種の話はさせていただこうという形で、こういうものを校長会に提出して、モデル校として手を挙げていただこうと考えているのですが、よろしいですか。あとは校長会だけだとなかなか動かないので、お知り合いの学校の校長先生に声をかけるという方法もあると思います。これもしないと多分動いていただけない。

事務局 学校が何を求めているかというのがこちらのほうでわからないので、各中学校のニーズ把握をしながらという形になっています。地域との接点の中で何かやりたいというご要望があれば、ここにはないものでも相談してくださいという働きかけをしたほうが良いと考えています。

委員 私は趣旨に賛同します。これからの会議は具体的な部分について練っていかないといけないと思っています。今ご提案がありましたような形で、モデル校についてはある程度当たりをつけていいと思うのですが、その前に校長会に趣旨を説明して依頼するのが筋だと思います。その場合にもう一つ手を打っておく必要があるのは教育委員会で、教育委員会にも、区民会議ではこういうことを考えています、校長会にはこういうことをお話しする予定でいますということをお話しておいて、校長会に説明されれば良いと思います。

その上で、今度は具体的な学校に当たりをつけて取り込んでいくということで、資料には4校とありますけれども、数校当たりをつけて具体的な話をつけていったらいいと思います。2月、3月中にある程度学校にお話をしないと、新学期になっては、もうちょっと無理ですよと言われます。

事務局 校長会直接ではなくて、教育委員会の区の教育担当を通じて校長会に諮っていますので、一応教育委員会には話は通っています。

部会長 では、3月2日の校長会を経た後、お知り合いの学校のところに具体的に、こんなことをやろうと思っているのですが、やってくれませんかという依頼をしていくということで、私は桜本中学校が多分オーケーをくださいます。新しくいらした養護教諭の先生が地域とつながろうとされていて、虫歯の話とかたばこの話をしていますので、ここは多分大丈夫だと思います。

大師地区ではどこかありますか。

委員 きょう鈴木委員が来れば、大師中学校はどうですかというお話をしたいのですが、大師地区ではあと南大師中学校と川中島中学校がありますので、そのうちの1校を私のほうで選びます。

委員 私は京町中学校。委員会の先生は京町中学校で長年やっていた先生で、私もかなり懇意にしていますので、先生から京町中学校のほうにもそれはつなげるようにお話をします。

副区長 校長先生から養護教諭とか担任になかなかこれが落ちていかないの、校長先生を行政のほうで、先生のほうは皆さんでお願いできるとつながると思います。行政からの働きかけだと、どうしてもやらされ感が出てしまうみたいなので、お願いします。

副区長 大まかな流れとして、今モデル校を決めて、それに沿った出前講座をして、その後はどうなりますか。

部会長 その後は、やっていただいた学校にポスターづくりをお願いします。

少し具体的な話になるのですが、では、こういうことをやりますと言って、どこに相談してくださいというのは、私たちが相談を受けるわけではないですね。

事務局 この案には連絡先と事務局として企画課が提示されていますので、事務局で集約して、ここにあるメニューなら事務局からお願いすれば多分大丈夫なのですが、ほかのものは関係課を探りながら、可能な限り対応できるような仕組みを模索していくようになると思います。

部会長 では、コーディネーターが事務局になるということによろしいですか。

事務局 そうです。

部会長 私たちは声をかけて、どうですかということで、具体的なことは企画課のほうに連絡をしてくださいというふうに返してしまってよろしいですか。

事務局 それで大丈夫です。

委員 大師地区では鈴木委員がかかわっている大師中学校はどうでしょうか。もしやっていただければお願いをしたいと思うのですが。大師中学校にまず声をかけていただいて、

大師中学校が引き受けてくれればモデル校として決まりますし、もし大師中学校が今の段階で受けられる状況ではないというご返事があった場合には、私が残りの南大師中学校か川中島中学校に対応するというような順序でどうでしょうか。

委員 いいです。私は区民会議の委員をやっていて、その立場の上からのご連絡なのですがということで言えばいいわけですね。

事務局 3月2日に校長会のほうに行政からもお願いする形になるので、事前にお話しただくのでしたら、正式にそこをお願いはしますけれどもという下話でも構わないかと思えます。

副区長 行政が校長会に投げるチラシが皆さんにも渡ったほうが、こういう話がかかっていると思えますけれどもということで話しやすいですね。鈴木委員については、まだ案で、正式にまた来るとは思いますがということでこれを見ながらお話しさせていただく形がいいですね。3月2日の前に校長先生とお会いするということですか。

委員 今週の木曜日に学校保健委員会でお会いします。

副区長 では、案でお話しする。正式には3月2日の校長会に校長先生のお手元に届きますという話ですね。

部会長 それでは、モデル校を今年度中に決めていくという形で、オーケーが出た学校がありましたら、すぐ事務局のほうに連絡をとるという形でよろしいでしょうか。時期とか細かいことは全部お任せということでよろしいですね。

モデル校でモデル事業をやっていただいた後どうするかというところでは、出前講座を受講した生徒を中心に啓発ポスターとか標語の作文コンクールを開催するとなっていますので、これをいつごろするかということを決めておかないといけない。予防接種のことを考えると、余り遅くてもだめですね。でも、講座を受けた後にやるので、10月とか11月じゃないとポスターのことはできないですね。

事務局 中学1年生をターゲットにするのであれば、年度内だったら確実に予防接種を受けられますので、講義を受けた後すぐかいてもらう感じですか。

委員 中学1年はMRワクチンの対象年齢ですがけれども、子宮頸がんワクチンは中1から高1までですから、MRワクチンの啓発ポスターは中1の生徒に、子宮頸がんワクチン

の啓発ポスターは中3の生徒にといいのもいいのではないですか。

委員 中学3年生は非常に厳しいのではないですか。高校進学が控えていて、11月、12月、1月、2月は学校側としても入試に専念していますし、特に12月あたりから面接指導に入ります。それでいっぱいですからポスターどころではないと思います。もしやるとしたら1年生と2年生あたりまでだと思います。

副区長 両方関わるのは中1ですね。

部会長 このモデル事業自体を中1に限定にしてしまったらどうですか。

副区長 絞ってしまったほうが依頼しやすいですが、それでいいでしょうか。そうすれば予防接種は2年生で受けても3年生で受けても構わないですね。

委員 MRワクチンと子宮頸がんの予防接種は1年間の中でやってもいいのですか。間をあけたほうがいいのですか。

委員 MRワクチンは生ワクチンですので、1カ月あければ次のワクチンを打つことができます。ですから短期間に両方済ますことはできます。

部会長 では、出前講座はおおむね中学1年生を対象にという形で行う。

事務局 それもどこかに書き加えておいたほうがいいですか。

部会長 はい。ばらばらにポスターが集まってきても困るので、健康の週間みたいなものがあつたら、そのころに合わせてというのがいいですね。ポスターを集める日にちが決まれば、それまでに前講座を済ませればいいので、出前講座の日程も大体決まってくる。

委員 夏休み前はどうか。

部会長 夏休みは物すごくたくさんポスターとか標語が集中するので、夏休みはちょっと、えっと思われると思います。

部会長 出前講座のことを考えたら余り早くても困るので、12月とか冬休みとかにかいてもらう。それで1月に選考会をする。

副区長 冬休みにかいてきてもらうとか、授業でできなかつたら宿題に出すのでしょうか。

委員 中学生だと宿題でやってくるかどうか。あとは美術部にお願いします。ある程度人数は限られるかもわかりませんが、中学生で受講した人全般にこのポスターをかけと言っても、ちょっと難しいかもわかりません。

副区長 啓発ポスターか標語だと、どちらが出やすいのでしょうか。

部会長 標語があってポスターをつくるのではないですか。その標語をポスターの中に落とし込んでポスターをつくる。

副区長 私は標語コンクールと別々に考えていましたが、確かにそうですね。

事務局 ポスターを地域に張り出していくとすると、別にコンクールではなくてもいいということですか。

部会長 そうですね。いい作品を地域に張ってもらう。時期を決めないといけないので、大体冬休みをめでたきでよろしいですか。それまでに出席講座を受けていただいて、受けた学校からポスターをかいてもらって、それを冬休み明けに集めていただいて、2月か3月ぐらいに町内会とか各学校に張ってもらうという形にして、次の年の健康のことを考えてもらうポスターにしていくという流れでよろしいですか。

委員 こういうポスターとか標語のコンクールで生徒にかいてもらうということなのですが、学校の事情があって難しいです。幾つかのものから生徒に選ばせるという学校もありますし、この種のものが数多く行って、ちょっと無理ですとすぐ断られてしまうケースもあります。何でも引き受けてやるんだという姿勢を持っている学校は快く受けてくれますけれども、学校は千差万別です。校長、教頭の対応がそれぞれ個性が違って違うので、難しいです。

事務局 そこまでやるなら講座はいいよと言われてしまうのはつらいですね。

副区長 セットだと確かにその可能性はあります。

委員 受講生全部にかかせて、その中で幾つかいい作品を学校のほうで選んでもらうとい

うケースもあるし、全部応募するという学校もあるし、部分的な生徒にかかせるという方法もあるので、基本的にはこういうコンクールをやりますからということで、その学校の実情に応じてそれぞれの方法を選んだ形を出していただいたらどうですか。

全員出しなさいと言わないで、こういうコンクールがありますからぜひ応募してくださいぐらいのことだったらいいかもしれません。

部会長 出前講座をやって、そのときに健康ポスターを来年度に向けてつくるので、よかったらいついつまでに応募してくださいというアナウンスをする。それで決まったポスターは来年度、川崎区の中学校で張られますみたいな形にする。

委員 とにかくコンクールはやりますということで、応募してくださいということは入れておいたほうがいいと思います。

事務局 この文章の最後に、これに関連した啓発ポスターの作成も考えていますぐらいのことで付記したほうがいいですか。その際はまた別途ご案内させていただきますみたいな感じでしょうか。受けたところに強要して、逆に出席講座をしり込みされてしまうのはもったいないと思います。

部会長 啓発ポスターは啓発ポスターでまた校長会にお願いをして、やった学校が名乗りを上げていただければラッキーということですね。

委員 今このリストを見て、MRワクチンは3月の子ども予防接種週間に該当すると思います。これはどうして3月かというと、予防接種の予算が組まれていますので、その年度内に済ませてくださいということで、3月を過ぎて4月に入ると、もう対象から外れるわけです。予防接種法に基づく何歳という決まりがありますので、それを過ぎると対象から外れますのでお金も有料になります、何か事故が起きたときの救済も対象から外れますという意味で、3月いっぱいを受けてくださいということですね。

子宮頸がんワクチンについては、9月のがん征圧月間というのが一番近いのではないかと思います。子宮頸がんワクチンというのは、そもそもがんをワクチンで予防することが可能だという日本の国では新しいワクチンを始めるわけで、子宮頸がんにならないようにするための方法として、予防が治療につながるという意味ですので、これは9月のがん征圧月間に一番近いものであると思います。

中学校のお子さんたちは、何で子宮頸がんワクチンを、今までそんなものはなかったのに、それをどういう説明をして理解をしてもらうのがいいのかと考えますと、やはりがん征圧月間に、子どもたちを守るために大人も検診をして予防しているのだから、あ

なたたちも一緒に受けましょうねと、そういうふうなスタンスが1つあると思います。

部会長 予防接種のことも大切と考えて、この出前講座をしていこうということでもありますので、では3月の子ども予防接種週間に向けてポスターが張れるような形で、冬休み明けぐらいに提出をしてもらって、1月中に決定をして、2月ぐらいから張り出せるという形にしたらどうでしょうか。そこに向けて啓発ポスターのコンクールを行いますのでということで、それにも参加をしてください、協力をしてくださいということを一文、3月2日のときの文章に入れて、2本立てにしたらどうでしょうか。出前講座と啓発ポスター協力のお願いで、出前講座とポスターは切り離す。出前講座を受けたらポスターをかかなければいけないというのはなしにする。

副区長 ポスターをかくのは全校に呼びかけるんだけれども、どういうふうにすればいいですか。

委員 何かをやって、そのイメージでポスターというのは多分つくれると思うんです。ある程度自分のものとして受けとめて、それを描くようなイメージでないと、イメージがわからないかもわからないですね。

部会長 では、切り離さないでセットですか。

委員 セットが可能か否かはちょっと難しいかもわからないのですが、その辺もアプローチの中でプラスアルファでお話をしてみたりとか、校長会の中でも確かに難しいとは思いますが、今言ったような受講を自分のものとして描くというところも説明を入れていただく。

委員 つまり3点、出前講座、予防接種を受けるということ、それで作品を提出するという問題があるのです。その3つのところをどうやって結びつけるか、つけないかという問題ですね。

事務局 考え方としては、受講して、受講したイメージでポスターをかいて、それが啓発ポスターになり、それを受けなかった方にも広めるという形をイメージしていたのですが。

部会長 流れる的にはそうです。

事務局 地域の中学生がかいたポスターだと、地域も大事に張って見てくれるのではないかとこの発想だったのですね。

部会長 ポスターのこともやはり書いてあったほうが、次をお願いするときにしやすいと思うので、3月2日のときには、健康の啓発ポスターもつくって、それを地域に張り出していきたいと思うので、それにも協力をしてくださいというのを一文入れたほうがいいかと思います。

委員 来年度中に予防接種を受けてもらうということが頭にあれば、展示の時期は3月では遅いので、9月のがん征圧月間とか健康増進普及月間に合わせて展示をして、その結果、3月までに予防接種を受けるとというのが一つの方向です。もう少し長い目を見て、来年度はとにかく出前講座をしてポスターを展示するというところまでを3月までにやって、その効果は次の年度に持ってくるというような考え方もあると思うのですが、そこらあたりは歩みとしてはどうなのですか。

委員 中学1年生の学校のカリキュラムを私も明確には覚えていないのですが、ここにあるたばこの害とかそういうのは、各中学校は割と年度の早いうちに入れ込んでくると思います。学校からの広報紙を見ると、そんなに学年の終わりのほうではなくて、比較的前のほうに組まれてくるような気がします。

副区長 夏休み前とかですか。

委員 ええ。夏休みというのは子どもが羽を伸ばす時期なので、その辺を加味しながらプログラムにするような気がします。もちろん学校によって違うかも知れないのですが、モデル校になっていただける学校などは、恐らく前倒しのところの企画に織り込んでくださるのではないかなと思います。

部会長 織り込んでくださいと言わないと9月は無理ですね。5月は運動会だから6月ですね。

事務局 当たっていただく学校にそこまで当たっていただくことはできるのですか。

委員 それはできます。

事務局 それで正式に依頼をかける感じにしますか。

副区長 とりあえず今の案で行くかどうかを大まかに決めておいて、当たってもらったほうがいいですね。

副区長 9月がポスター掲示だったら、「夏ぐらいまでに講座はできますか」とか、「ポスターもかけますか」とか、お願いの仕方がそんな感じになってしまうのでしょうか。そうしたら、もっと後よとかもっと先よとか言われるかもしれない。

委員 そのあたりの感触をまた報告し合ってやるしかないですね。

部会長 では、ここはポスターは具体的なことは書かないで、年度内で啓発ポスターづくりをということで書いていただけますか。

副区長 大体9月ぐらいというのを念頭に置いて書く。

委員 9月もあるし3月になることもあるし、それは柔軟にする。9月に展示できれば、3月までに予防接種はやっていただけるのかなと思います。3月の展示になってしまう学校は、次の年度に期待するしかないです。そんなところでいいのではないですか。

委員 まさに今の時期でタイムリーなテーマというのは、4月から新しい事業として始まるわけですので子宮頸がんワクチンだと思います。何で私たちが痛い注射を3回打たなくてはいけないのかということなわけです。それは日本の国でもやっと認められて国の負担もしてもらえることになって、こういう大事なことなのだから皆さんに受けてもらうわけですよということを、生徒さんたちも疑問を持っているし、それにうまく答えてあげて十分納得してもらうためにも非常にタイムリーなテーマだと思います。

MRワクチンというのはあと1年ぐらいで終わりになってしまいます。時限立法ですから、あと1年ぐらいすると中学1年生と高校3年生が全部済んだことになってしまいますので、1歳のお子さんと小学校へ入る前のお子さんの2回しかやれない。対象年齢が決まってしまいますので、これは時限立法だということです。

部会長 MRワクチンのこともありますので、そういうことも考えると9月がいいですね。

委員 石渡委員が9月ごろとおっしゃいましたけれども、ぜひ前向きに取り組んでいただくのがいいと思います。

事務局 予防接種の内容については、ご相談すれば先生のほうで伝えたい内容は整えるこ

とができますか。重要性というのは多分先生でないとなかなか言いたいことがまとまらないと思いますので、ご相談しても大丈夫ですか。

委員 結構です。あくまでも子ども部会ですから、モデル事業的な要素でやっているわけですね。これを本腰を入れてやるところは行政と医師会のほうですから、この子ども部会はそれに少し先駆けてというか、モデル事業的に始めるということですね。

副区長 ポスターの掲示などは、先生を通じて区内の病院に掲示するとかは可能ですか。

委員 はい、できます。

委員 そうしたら幅広くなりますね。

事務局 掲示板だけでなくて広がりが出ます。

部会長 では、子どもの健康を考えるというところでは、かなり具体的に動けそうなので、3月に校長会にお知らせをする。3月中にモデル校の打診をする。できれば夏休み前までに実施をしていただいて、9月ぐらいまでに啓発ポスターを作成できるような形をお願いをしていくということで、ポスターをその後、学校と川崎区内の医療機関に張らせてもらおうということでしょうか。

副区長 対象は中1。クラスでも学年でもそれはオーケーということですね。

部会長 それは受け手の問題だと思います。先生ややる側の問題でオーケーということですね。

事務局 原則中1ですか。

部会長 それは原則ですね。別に中2でも中3でもいい。モデル校が1年1組をやって、次のときに1年2組をやってくださいというのもありですか。

事務局 ご相談次第です。何回かに分けてと言われても、派遣できる数を日程調整しなければいけないですから、重なってしまったら難しいです。うちの職員が対応できる範囲であれば多分何校でも大丈夫だと思いますが、その辺も含めてご相談いただきたい。本当にお試しなので、どういう形で上がってくるか見えませんし、学校の要望がつかみ切

れていないので、ぜひニーズを把握したいという部分もあります。

部会長 では、子どもの健康を考えるということは、これで1年間の計画が決まるという、こんな感じでやっていこうということによろしいでしょうか。

各委員 異議なし

部会長 次に、世代間のところは具体的に進められますでしょうか。世代間も具体的にモデル的にやっていくのがいいと思うのですが、とりあえずカローリング大会を来年2月ぐらいに開くということで、そこに向けて計画を立てていくということでもいいですか。

委員 大会だから、その大会以前の練習を含めた、まずそこを何回かやってみなくてはいけないと思うので、来年2月ぐらいでないと大会と称するものまでは開けない。地域の子どもと大人の関係づくりをまずはしなくてはいけない。例えば桜本さんとか私たちとか、子どもが集まる場所的などころを少しずつ発掘してやっていく。

部会長 私も宮崎委員もこども文化センターなので、子どものところの实践はつくっていきやすいのですが、障害のある人とか高齢者の施設とかでのカローリングをどう普及していくかというところは、高齢者部会とかどこと手をつないでいけばいいのか。体育指導員は市の体育館でやっているのですが、市の体育館だと結構元気な人ばかりがいらっしやる。

事務局 あれは定期的にご文でやっているのでしたか。そこに一緒に誘い込むとかというのはできるのですか。今はやっていないのですか。

委員 まだやっていないけれども、でも、ちょっと興味はあります。まちづくりの方がその光景を見て、おもしろそうだな、おれたちにもできそうだなと言っていただいで、こども文化センターはまちづくりの地域の方が結構頻繁に来てくださっていますので、大きな規模ではなくて小さなところから少しずつやっていくのもまた一つかと思います。

事務局 この日やるからちょっと来てみてはというような感じはできるということですね。

委員 ええ、できます。すべての方まではだめでも、日々来てくださっている方とはできます。

事務局 そんな感じで老人クラブとかに声をかけるというのもできるということですか。

委員 はい、できます。これは学校に当たらなくてはいけないところなのですが、例えば地域の老人会の方にお声がけをさせていただいて、学校の土曜日、体育館はわくわくプラザが優先的に借りていますので、そこで動きをとることは可能だと思います。一挙にたくさんというのは少し無理だと思うのですが、少しずつやっていくことは可能かと思っています。

部会長 こども文化センターも10館あるので、10館で子どもだけではなく地域の人たちを巻き込んだカローリング教室を月1回とか2カ月に1回とか開いてくださいと、こども文化センターにお願いすることは可能ですか。

委員 それは区の本部のほうにちゃんと筋を通していただいて、館長会議におろしていただいて、各館がそれに向けて少しずつ前向きにというのは可能だと思います。

副区長 団体を巻き込むか、地域の人を巻き込むかどっちかですね。団体だと障害者協会を巻き込むか、市老連という老人クラブを巻き込むか、今言ったようにこ文プラスその地域の方を巻き込むか。

部会長 障害のある人たちの団体とかにカローリングをやってみませんかと声をかけて、体育指導員がカローリングを教えに行ったりとかするのですか。

副区長 体育指導員も働いているので、それは日程が合わないと無理です。

部会長 団体に声をかけたものの、カローリングをどうやって普及していくのかという問題があります。

副区長 そこを話し合って、こ文がそこに出向いて交流を深めながら大会は体育指導員にお願いするというやり方でないと、体育指導員は受け切れないと思います。何か大会でないと、毎回の指導はなかなか難しいかと思っています。

委員 まずカローリングというのがこの会議に出て、各支所の地域振興課から指導員の方をこども文化センターに派遣をくださいました。毎回毎回は難しいですけども、第1回目のところは調整が合えば体育指導員はやっていただけたらと思います。

委員 カローリングの交流試合ということですね。子ども、高齢者、障害者を含めた大会です。これは規模によって、範囲によってかなり変わってくると思いますが、その大小にかかわらず、基本的に区民会議が提案している形の試合です。そのあたりの趣旨をまずはっきりと理解してもらおう場を設けたほうがいいのではないかと思います。どういう人がどういう形で呼びかけてこういう大会を盛り上げてくれるのか、そこは具体的に考えていく必要があると思います。

そのためには、試合に向けた実行委員会のようなものをつくって、そこで趣旨をはっきり理解してもらった上で行ったほうがいいのではないですか。実際はこども文化センターが中心にはなるかもしれないけれども、そこがすべてをやるのではなくて、実行委員会が中心になって、こども文化センターも巻き込んだ形で大会をつくっていくほうがいいのではないかと思います。具体的には、体育指導員とか老人クラブの会長とか、それぞれの代表する人がいると思いますので、そういう人たちの実行委員会を中心としてこの大会を盛り上げていったらどうなのでしょう。そのほうが筋がはっきりしてくるのではないかと思います。

部会長 区民会議がカローリング大会をするわけにはいかないと思うので、いろいろな人たちが集まって、どういうふうに声をかけてやりましょうかということは必要になります。大会をやることが目的ではなくて、広めていく中で、大会があるということで一緒にやりましょうというふうになっていくことが大事だと思います。

委員 だから抽象論、一般論ではなくて、具体的に参加してくれそうな地域とか団体とかでつくられて結構だと思うのですが、一つの実行委員会をまず組織したほうがいいのではないか。それを持ち上げているのは区民会議ですから、その責任の所在をはっきりしながら、実際には地域の方々の力によってそういう大会ができ上がったということで、なるべく地域の人に理解してもらおうというか、広めてもらうのが一番いいと思います。高齢者部会との話し合いも必要だと思います。

委員 こども文化センターと地域包括支援センターは同じ中学校区に1つずつあるセンターなので、そこをうまくつなげられないですか。持ち上げる役が子ども部会と言われてはいますが、何かそういう接着剤みたいになるようなアイデアというのは、すごく奇抜ではないかと思います。ご高齢の方というのは子どもたちと一緒に遊ぶと非常に喜びます。そういうご高齢の方の喜んだ顔を見ると、子どもの心は豊かになると思います。せっかくのカローリングですから、そういうことをうまくくっつけて事が進むといいと思います。

委員 そのこのところの組織づくりをどう考えていくかということですね。最初のテーマの地域の人と子育て中の親が出会う場所づくりとか、こころの居場所づくり・不登校支援、自由に思いきり遊べる場所づくりという3つのテーマもありますが、ここらあたりもどういうふうに組織づくりをしながら、さらに進めていくかという問題になると思います。

ここのところでも、そういう組織をどのように立ち上げるかということが僕は重要だと思っています。区民会議だけで考えるのではなくて、そういう委員会をさらにつくった中で、もっと細かいいろいろな具体的なイメージが出てきて、その対応策が考えられてくるのではないかとイメージしていたものですから、ここの部分でもカラーリングの試合をするための組織づくりが重要なテーマで、そこをクリアすると、自然とスムーズに行くのではないかとイメージを持っています。

こども文化センターだけをお願いしていくような形は、こども文化センターにとってはすごく負担ではないかと思っていて、そこをより多くの関係する人たちが集まる組織をつくってやっていくのが、もっとスムーズに大会実行まで進んでいくのではないかと考えています。そこをもう少し知恵を出して考えたらいいかと思えます。

部会長 どういうふうに広めるかとかは、こども文化センターだけではとても担えないことです。実際今、こ文がカラーリングを一番よくやっているのので、やっているところを媒体にしながらしていくのがいいのですが、でも、こ文で全部やってくださいというと、こ文も大変ですし、地域包括支援センターとつながることによって、その学区内にどんな高齢者の施設とか障害のある人たちの施設があるかというのも私たちは知らないのので、その情報交換もできたら、一緒にやりましょうということもやれるかもしれません。では、今度あそこに訪ねていったらどうですかという助言もいただけるといいと思います。

大会ありきではないのですが、何かがないとなかなか浸透させづらいので、年度の終わりぐらいに大会を開くために、その大会をどういうふうに持っていきましょうかという実行委員会づくりをしていくみたいところで落としていくというのはどうですか。いろいろな障害者団体のだれかに来てもらうとかというのもなかなか大変だと思うので、同じ中学校区を網羅している地域包括支援センターとこども文化センターとで一度、どんなふうにやれるかと。

委員 障害者の子どもたちだったら田島養護学校があるでしょう。その先生に来てもらうとか、地域包括支援センターの担当者に来てもらうとか、こ文の館長に来てもらうとか、老人クラブの会長に来てもらうとかする中で何人か集まりますね。そういう集まったところで具体的な話をしていたほうが、いろいろ言いたいことが出てきて話がまとまればスムーズに行くのではないですか。

その場合に、集まってもら方々のメンバーによっては規模が変わると思います。田島、中央、大師でいっぱいになってしまうか、あるいは田島だけになってしまうか、それはそれでいいと思うのですが、集まりやすい方々にまず来てもらってそういうものをつくってもら。それが一つのモデルケースと考えれば、それがうまく軌道に乗っていけば、今度は川崎区全体に広がっていくのではないかと。そういうところをまず立ち上げてほしいと思います。

委員 最初にばつと大きくではなくて、まずカラーリングそのものも、こども文化センターに通う子どもたちは大なり小なりわかってきてくださってはいるのですが、決してそんなに幅広く浸透されてはいないのが事実だと思います。ですから、今、地域の中学校区の中に地域包括支援センターがあり、こども文化センターもあり、地域教育会議もあります。地域という名のつくもののところに声がけをさせていただいて、区民会議の中でもこんなものが提言として出ているので、ぜひ動いてみましょうというような話をするのもまたいいのではないかと。

委員 そうですね。子どもたちの大会というのはもうかなり実績があってできています。今度はそこに障害者とか高齢者が入ってきますので、そのところでもう一度という思いです。

事務局 それが実現するのだったらアピールして、ほかでも、ぜひうちでもやりたいというような雰囲気をつくっていくというのもいいかもしれません。

委員 やって見たけれどもこうだったからと言って、やったところが次のところに言っていくのもまた一つですね。

部会長 それでは、こども文化センターとか地域包括支援センターとか養護学校とか老人クラブとか、今母親クラブが余りないのですが、母親クラブとかそういうところの方たちに声をかけて、世代を超える交流としてカラーリングをみんなでやりたいと思うので、ぜひ一度集まってくださいという形で会を持って、カラーリングが何だかわからない人もいっぱいいるので、まずカラーリングを一回やってもらって、2月なら2月にいろいろな人たちが集まってわいわいがやがやとカラーリングを楽しむ会をやりたいので、皆さんのところでこのカラーリングをどういうふうに普及できますかみたいな形で声をかける。もちろん体育指導員にも声をかけなければだめですね。そういう会を一度4月か5月に区民会議子ども部会主催で持つ。

委員 そうですね。今度フォーラムをやりますが、ああいう形でメンバーを集めて会をする。

部会長 それでこちらの趣旨を説明して、カローリングを通して世代間をつなげたいので、できれば大会を2月ぐらいにやりませんか。そのためにこのカローリングの普及をそれぞれのところでできないですかというふうに持っていく。その中で、では、うちは今度子どもさんが来てくれたら一緒に楽しめるからといって、高齢者施設に子どもが行くことができないですかというふうにお話ができれば広がっていく。

委員 そういうことですね。田島養護学校の先生が来れば、この話をして、いつごろできそうですかね、やっていただけますかねと具体的に相対で言えます。体育指導員が来てくれたら、協力してもらえませんかと言えば、皆さんは顔を存じているわけだから、すぐ話がつくと思います。

事務局 そこでつながれば、また別の展開もある。

副区長 それが中学校単位で集まっていくと、地域がカローリングを通して交流できるということですね。

部会長 では、まずは大きくばんといろいろなところの代表者みたいな方たちに集まっていただいて、そこで顔つなぎをして、一つの大会なら大会に向けてやっていくんだけど、その中で人間関係ができていけば、同じ中学校区だから一緒にやりましょうかというようなことにつながっていくことを期待する。

事務局 ほかの部分でつながっている人たちもいると思うので、その媒体でカローリングはどうですかということで提案していくという感じですかね。

部会長 それで4月は皆さん忙しいので、5月ぐらいにそういう会議を持っていく。またこういう校長会に出すみたいなお手紙をつくって、一度集まる。

委員 それまでにある程度人選をしていただいて、候補者をお願いします。

事務局 検討しておいていただいて集約して、またスケジュールも仮置きしてみるというような形ですね。

部会長 では、5月ぐらいをめどに、それまでの間に関係部署のところをお願いをして、5月に一回、カローリング実行委員会なのか名前はもう少し考えさせていただいて、会を持っていこうということです。目標としては、2月ぐらいにどこかで世代をつなぐカローリング大会みたいな日ができたらいいかと。

各委員 異議なし

部会長 それでは、前3つをどうしましょうか。

副区長 5個の課題を全部やるのか、それともこれはどこかとドッキングさせるのか、これはやめるのか、選択が3つあると思うんですけども、その辺はいかがですか。

委員 この3つについては当初それぞれ独立して考えていきたいと思いますということを私は申し上げたのですが、事務局のほうでまとめていただいたものを見てみると、別々にやらなくてもいいのかなという気になりました。これはお互いにかかわっていると思います。細かいことを言えばみんな違うのですけれども、子育ての問題と居場所の問題と自由に思いきり遊べる場所の3つについては、ある意味ではかかわり合っているので、同時展開をしてもいいのかなという気にはなっています。

ここのところでも具体的にどうやってイメージを実現していくのかというと、今の段階ではまだぼうっとしています。先ほどの2つの問題はある程度先が見えていますから、はっきりしているのですが、この3つはまだちょっともやがかかっているのです、それをもう少しはっきりとした形にしていく必要があると思います。

それで、やはりこれも関係の方々に集まっていただいて、具体的な点についてお互いに意見交換をする必要があるのではないかと思います。つまり、関係者の全体会議を要請する必要があるのではないかと。その中で運営体制とか事業方針とか事業内容とかを具体的に出し合って、実現へ取り組んでいくということをしないと、なかなか先が見えません。

では、どういう人たちに集ってもらえるのかということなのですが、まずまとめの中で、地域の人と子育て中の親が出会う場所づくりというのがあって、解決に向けた取り組みスケジュールがあります。この中で、出会う場所づくりの事業概要等について書かれている、これがまず最初だと思います。その次の介護予防事業云々のところ、3つ目の運営に協力してくれる団体・区民云々のところは次の第2段階だと思います。そして一番最後の出会う場所開催に関する調整とか地域の人と子育て中の親が出会う場所の開設は3番目の段階であって、一番最初の段階をある程度つくっていかないといけないのではないかと。

そのためには、幾つかの代表の人たちに集まってもらって意見交換をしていく必要がある。そのほうがはっきりと出てくるのではないかと思います。具体的に申し上げますと、社協の4団体の会長、あるいはそれにかわる代表者、それから全員でなくていいのですが、何人か町連の代表者、民協の代表、保護司会の代表、地域教育会議の代表、あとは青少年指導員会とか体育指導員会の代表とか校長会の代表、そういう人たちに集まってもらって、私たち区民会議としてはこういうことをやっていきたい、ついてはいろいろ提言をしてもらったりアドバイスを受れたり、あるいは提案をもらって進めていきたいのだということで、根っこの部分は今まで私たちが考えてきたことをとにかくぶつけて、どうなんだというようなことをまず最初にやったらどうかと思いました。

私たちの大きな願望は、川崎区内にプレーパークというか、夢パークを実現することがあって、そのほかに町内会とかいろいろなところでそういう出会う場所を具体的に組織していくという大きな夢を持って取り組みたいと思います。

部会長 それぞれの3つの部分の関係者の人たちに来てもらって、具体的に何がやれるのだろうかということをしていくということですね。

委員 高齢者が老人いこいの家に集まっています。子育ての若いお母さんや赤ちゃんや子どもが来ます。でも、そこに集まってくる老人クラブとかそういう人たちの中には、うるさい子ども、赤ちゃんは嫌だよという拒否反応を示すところもあります。そういう人たちにもまず理解をもらって、こういう思いを伝えていかなければ受け入れがなかなか難しいのではないかと思いますので、現場の方々に来ていただいてお話をし、そこからまず浸透させていかないといけないかなという感じです。

部会長 いろいろな人たちが集まって子どものことについて話し合う場を区民会議が設定する。その中で出会った人たちが、ではこういう場をどういうふうに具体的につくっていかうかということ話し合ってもらおう。そうすると、子育てフォーラムみたいなものを一気にやっしまえばいいのではないですか。

委員 今具体的に幾つかそういう部分が学校の片隅にありますね。それがみんな孤立してしまっているわけです。それが本当に十分に機能を発揮して、大きなものとして抱え込んでやっていたら、何もこういう私たちの提言は要らないのです。でも、それがまだ十分でない、浸透していないから我々区民会議が今取り上げているわけですから、そういうところも包含して、もう一度考え合って、そのところも十分、より大きく機能するような形に育てていくということも大事なことはないか。だから、やはり集まるということは大事なのではないかと思います。

委員 遊べる場所というのは、この間、全体会合のときに飯塚議員から、地域教育会議のほうで富士見公園のあの辺をというようなお話がありました。あの辺で少しずつ議員も巻き込んでというような力強いお言葉があったと思うのですが、場所づくりというのは、その辺と、地域教育会議の堀切さんのほうとの連携で、すぐは難しいもわからないのですが少し動きがあります。

フリースペースえん、居場所づくり的なところは、確かに今、旭町のところではやっていますけれども、フリースペースは夢パークの中に一体化されているところです。地域教育会議が提言している富士見公園というのは遊べるだけのスペース的なものなのかもわからないのですが、この辺は一つになるような気はします。

委員 富士見公園とか小田公園の話が一番最初に出ましたけれども、そういうところで構想をしてもらうのは、地域の方々も同時にいなければいけないわけで、町内会長とか社協とかいろいろな団体の代表者たちがそこに常について、そうなんだねと理解することによって大きな力になってくると思います。そこには区長も入りますし阿部市長も入ってもらうということになって、我々は総力を挙げて実現させていくわけです。

そういうような大きな構想もあると同時に、いわゆる町内会館の問題とか老人いこいの家の問題とか、そういう場所を探すという努力もしますけれども、代表者がいることが非常に大事なのです。こういうものは草の根運動でお互いにやっていかないとなかなか難しいかと思えます。

部会長 特に不登校支援などはそうなのですが、何かの実績をつくるとか、そういうことよりも、不登校の子どもがいることだとか、子どもたちが公園で遊べていない実態とかを余りにも区民、特に大人が知らないです。公園でボールをけっちゃいけないと、私たちは子どもにかかわっているのを知っているけれども、子どもにかかわっていない方たちは、何でと疑問に思われていて、実態がわかっていないというところでは、実態をどういうふうに区民に伝えていくのか。その中でみんなでいい案が出せたらいい。

私たちが何かをここで作り出すというのは、このテーマはすごく大変だと思います。しかもプレーパークは実際に地域教育会議が具体的に動いているところで、区民会議はどうやってつながるのかというのはずっとひっかかりがあったのです。地域教育会議がこのまま何か大きな動きをしたら、区民会議は何もしなくなってしまうのかなと思っていたので、地域と課題をつなげるということを考えると、子育てフォーラムみたいなものを1個、いろいろな関係団体に声をかけて、この3つのテーマで話し合いを持って、具体的に細かいことで何がやれるのか、私たちの子育てとしてこんなことを実際につくっていかうみたいなことを話す場を1個持つのがいいのかと思えます。

委員 そのとおりです。つまり3つのテーマを話し合うのです。

部会長 この3つのテーマを話し合う1つの大きなものを持って、そこに地域の公園を大事にしているまちづくりの方たちとか公園課の人とか、いろいろな人たちにも集まってもらって、実は大きなプレーパークをつくれれば終わりではないのです。本当は家の近くでできる公園があれば、ここの空き地を使っていいよというような声をだれかが出してもらえればいいわけです。

今回は大きなプレーパークを見ていただいたのですが、北部のほうに行くと小さな公園でプレーパークづくりをやっているところがあるので、今川崎区には子どもが本当に自由に遊べる公園がないんだという実態を知ってもらって、みんなの知恵を出し合って、地域でどうやってつくっていかうかと。子どもの不登校のことも、学校へ行けていない子がいるんだということを知ってもらう。では、何ができるのか、そういう問題提起をまずしていかないと、個々に思いのある人たちだけが動いていても、それはその人たちだけの問題だということで、いろいろな知恵を出し合ってやっていくというところで、思い切って区民会議子育て部会主催の子育てフォーラムを開くということによって動くということによろしいですか。

委員 そうですね。公園が思うように使えないのは、今の現代社会の反映なのです。公園で事故があったらだれが責任を持つかというところにすぐ来てしまうのです。だから、行政も大人たちもまずそういう事故がないように、危険なことが起こらないようにということでいろいろな規制をしいているわけです。

私たちは公園の木にポスターを張ることさえも、公園管理者に十分なお話をして納得してもらわないとできないのです。子どもたちが自由に土を掘って遊ぶなどということとはできませんし、そのあたりから問題を考えていかないといけないと思います。

自由に伸び伸びと思い切って公園が使えるようにするには、今の社会の中では管理者が必要になってくるのです。それが既成の管理者では面倒を見切れないから、やらせないという方向でしょう。今度は、やってもいいよというような管理者があらわれないといけないのです。夢パークもそうです。あの方々も大変な努力の中で対応しているからあれができていて、そのあたりの問題を地域で考えていかなくてはいけないと思います。

部会長 では、地域での子育て、子どもの居場所づくりというところは、この3つのテーマのことを区民と一緒に考えるものをつくり出していかうということで、そっちの方向に行ってもよろしいですか。子育てフォーラムという仮称で、そこで区民に現実を投げかけていかうということで、そこから何をつくり出せるのかということをも目的とした子育て

てフォーラムを開く。

委員 開くためには、関係者に集まってもらう。

部会長 そのためにどこに声をかけていこうかということを決めていかなければいけないので、世代をつなげるカラーリングの集まりを5月に持っていくとしたら、フォーラムのことを考えるのは6月ぐらいに集まっていただいてそのことを投げかけて、フォーラムづくりをしていく。だから6月はフォーラムのもう少し具体的なことを考えていく。

副区長 現実的に5月にカラーリングの会議は開けますか。5月に子ども部会をやってあらままとめて、早くても6月というイメージかなと思うのですが。

部会長 私は逆かなと思ったのです。5月に先に集まってしまって、具体的なことかなど。どこに声をかけるとか、どういうふうに進めるとか、それを先に決めるということですか。

副区長 それがないと、集まってくださいということでも趣旨も明確ではないし、きちんとしたスケジュールを決めないと進んでいきません。そうすると、5月にやろうとってすぐは無理かなというイメージなのですが。

部会長 そうすると、5月の子ども部会のときに6月の世代間交流の具体的な話をしていくということでもいいですか。5月のときにはカラーリングのこととフォーラムの具体的なことを決める。

委員 そうですね。

部会長 子どもの健康のことは具体的に動いていってしまうので、報告ぐらいでどんどん進んでいってしまうと思うのですが、世代間交流の子育てと、地域での子育て、子どもの居場所づくりという2つのことを5月のときに具体的に、どこにお願いをしていくか、だれに声をかけていくかということを決めて、実行部隊をつくるのですね。実行部隊がいなかったらできませんので、役割分担しないといけないと思います。6人で分けていけないといけないと思います。

事務局 5月にその細かいことを決めて動き出すという感じですか。

委員 それで決めて集まってもらうのが6月。

部会長 だから6月は子ども部会と実行委員会と両方開く。

委員 これはカローリングのほうですね。もう一つの子育てフォーラムはやはり5月に決めるのですね。

部会長 どこに声をかけるかというのを5月に人選を決めて、声をかけて、6月にカローリングのほうの第1回目の実行委員会みたいなものを開く。7月にフォーラムのほうの実行委員会を開く。

副区長 カローリングの実行委員会というのは1回だけでいいのですか。

部会長 1回やって、その後はその流れの中で進んでいくと思います。

副区長 流れのイメージがわからないのだけれども、それは部会の中で進んでいくのか、別に進んでいくのか。

委員 実行委員会のほうで進めてもらう。

副区長 それには区民会議委員は携わらないのですか。

部会長 携わります。

委員 常に入るのでしょうか。

部会長 だから、この6人を分けないといけないと思います。6人が全部にかかわっていると大変なことになると思います。

副区長 半分が子育てフォーラム委員と、半分がカローリング委員みたいな感じですか。

部会長 はい。

副区長 そうすると、7月の子育てフォーラムの会議と別にそういう会議があるということですね。7月は子育てフォーラムの話をする。カローリング委員は別に第2回のカロ

ーリング委員会があるかもしれないというイメージですね。

委員 やはりこの3つのテーマ、地域の人と子育てを中心としたことについては、区の委員が二分されて3名でやるというのはきつい話だと僕は思います。この子育てフォーラムの行き着く先はどうなるかわからないので、これはやはり全委員が参加してほしいと思います。ただ、もう一つのカラーリングのほうは、もし負担が大変ならば、そのうちの半数ぐらいでもいいかなという感じはしています。

部会長 会議の数がふえてくるので、こんなにしんどくてというのがあったらどうなのかなというのを少し心配しています。

委員 カラーリングのほうは人数は多少少な目にやってもいいけれども、子育てのほうは全員が常に出ていただいて論議してもらわないと、まだまだ先が難しいかと思えます。

事務局 そうなってくると、部会との位置づけが難しくなってくるかと思えます。部会に関係者を呼ぶのか、全然別の形になっていくのかというのがちょっとどうなのかなと。ピンポイントでここからの話を聞きたいとかというと、関係者を呼んで具体的に意見聴取みたいな形はできるのですが。

委員 でも、部会は部会でやるのではないですか。

副区長 そうだと思います。子育てフォーラム実行委員会イコール子ども部会にはならないと思います。前半、後半に分けるという考え方もあるけれども、時間が毎回押しているからなかなか難しいです。

委員 だからカラーリングの実行委員会には区民会議委員の方が何人か出ます。そして、ある程度流れていって、それを絶えずこの区民会議に持ち帰っていただいてお互いにこの会議で確認して話し合っていかなければいけないし、もう一つの子育てフォーラムのほうも、フォーラムを開いた後、それがどういう形になるかわからないけれども、また持ち寄って話し合う。

副区長 そうすると、子育てフォーラム実行委員とカラーリング実行委員の部員が分かれて、この部会に持ち寄って、最低、みんなが月に2回、部会1回とほかの会合を持っていくような形になる。

事務局 フォーラムが少し唐突過ぎてどうなるかなと思います。

副区長 フォーラム自体はすごくいいことなただけけれども、これですぐできるかというのが心配です。今回はカラーリングだけやるとか、そのぐらいしかできないのではないかと。皆さんが生業を持ちながらこの区民会議委員もやり、カラーリング実行委員会、フォーラムの実行委員会もやるというのはできるのかなというのが心配です。

委員 子育てのフォーラムは子ども部会から全体会に上げて、区民会議全体で取り組んでいいような感じだと思います。

部会長 区民会議というのは実行部隊ではないじゃないですか。いわゆる区民の意見を聞いて調査して審議するのが区民会議というところでは、フォーラムを開くことによって声が拾えるから、調査するという意味でフォーラムを開くということが区民会議の一つの目的であってもいいのかと思います。私たちがあちこちへ行って聞くことが大事で、本当はここに来ていただいていろいろな意見を聞くのですが、区民みんなで考えましょうという調査審議をそこで一気にやってしまうというふうに考えて、その中から出てきた課題を次年度につなげるとか、そういうふうに考えてもいいのかと思います。

やるとしたら2つに分けて、部会でこういうふうに進んでいますという報告になっていくのでないといけないのかなと。あと、どれだけたくさんの人を巻き込むことができるのかとか、だれが声をかけるのかとかいろいろとありますが。

事務局 先ほど挙げられた団体もほとんど区民会議の委員として入っている方がいらっしゃるんで、それとの差別化はどうなりますか。

委員 まず子ども部会でいろいろ話し合っていて、こういうところにこの3つの課題が行き着いたということで、4月にある全体会にこれを一回出したらだめなのでしょうか。

副区長 カラーリングというのはかなり皆さんの中でイメージができていて、実際にある程度進んでいるのでできるかと思います。フォーラムは趣旨も正しいし、とてもいいことなただけけれども、例えば次年度1年間かけてフォーラム準備委員会をして、次の年でもいいのではないかと。正職を持ちながら何回も会議というのは実際的にできるのかというのがすごく心配です。これを3つ一緒にやるための準備委員会を1年間持つという考え方もいいのではないかとという気もするのですが、遅いでしょうか。

委員 今、遊べる場所で地域教育会議という話が出ていますね。この地域教育会議も、川

崎区につくってほしというのを何年もやっています。そういう継続性を持って動いていかなないと多分できないのではないですか。

副区長 だから、区民会議が地域教育会議と一緒にここで準備期間でやったりとか、その間に小田も富士見も動きがあるかもしれないということで、そういう意味の情報収集をしながら、どうやってフォーラムを持っていくかということでもいいのかなという気もするのですが、いかがでしょうか。

委員 区民会議というのは継続しています。このフォーラムというのは単発です。だから、これが常に区民会議と並行して何回も何回も会議を重ねるというものではないはずなんですけれども、違いますか。

部会長 私もそう思います。だから次年度につなげられないと私は思っていたので、3月かなと思いました。

委員 これは年間の中で二、三回やるだけですから、そんなに負担はないのです。

委員 でも、二、三回じゃこれだけのものは解決できません。

委員 解決するのは区民会議です。これは解決するのではなくて、理解を深めて協力支援をお願いをする場所なんです。確かに区民会議のメンバーの中には幾つか町会長とか町連の人も入っています。でも、それだけではちょっと補えないです。

僕がイメージしているのは、社協にかかわる部分をお願いするにしても、大師地区でも4つの社協の会長にお願いしないと、それがうまく出てこない。田島地区にも社協があるわけですね。そういうところから細かく丁寧に社協の会長と話し合って拾っていかないと、こういう居場所というのが出てこないのではないかなと思います。

副区長 事前に区民会議委員が情報を収集した上でフォーラムが必要だとやるのか、とりあえず開いて一堂に会してそれをやるのか。

委員 まず開いて、オーソドックスにやる。その中で協力しそうな人とそうでない人が大体自然淘汰されてしまうから、それでさらに進めて具体的な話をしていく。

副区長 区民会議というのは自分たちで情報収集、さらに調査審議というのがあるので、地域教育会議が子ども夢パークをどの程度進めていこうとしているのか、社協がどの程

度進めていこうとしているのかを情報収集した上で、ではどのような子育てフォーラムを開こうかというほうがいいのかと思うのですが、いかがでしょうか。

今の話だと、一回子育てフォーラムを開いて、集まってそれぞれの立場でそれぞれの情報を聞いてしまおうという話ですね。

委員 まず、どういう考えなり感じ方なり受け取り方をするのかということを見たいわけです。だからフォーラムといっても、私は一般参加を考えていないのです。集まる方はそれぞれの責任者、代表者です。それぞれの団体をどうやって運営していくかという責任のある人たちに集まってもらって、その人たちの反応、意見をまず聞きたい。そうすると、この辺の地区のこのところはかなり感触がいいとか、ここは全然悪いとか、そこで選別が行われるのです。今度は感触のいいところと折衝しながら、こういう問題をさらに深めて詰めていく。

副区長 一堂に会した情報収集と現状把握。

委員 と同時に啓蒙です。区民会議の考え方を述べるのです。今まで考えてきたことをぶつける。そうすると、まだこれは甘いとか、いろいろな批判が出てくるでしょう。それも謙虚に受けとめる必要があります。

副区長 区民会議がそういうふうに練り上げたことを提案する、その辺の審議というのはどの辺の時期を考えているのですか。

委員 練り上げるというのは、もうここに出ていることです。例えば老人いこいの家に若いお母さん方が行って交流する、そういうことです。あるいは町内会館に老人クラブの人たちのほかに若い母親が来るということです。そういうことをさらに積極的に取り組んでくれる町会があらわれるか、あるいは老人クラブがあらわれるか。そういうことをしていかないと、これは実現しないです。何も夢パークだけの話ではなくて、こういう3つの部門について私たちは取り組んでいるわけだから、それぞれがどういう形で実現していくかということです。

部会長 今、健康のことだったら校長会にお願いをすれば、校長会がうんと言えれば実行できることです。だけど、子育てに関してはどこにお願いしていくのかというと、全部を巻き込まなければいけないことですね。一つ一つに、こういうことをやりますからお願いしますというわけにはいかないから、一気に全部の人たちを集めて、こういうことを区民会議はやりたいと思うけれども、あなたたちの現場ではできますか、何か具体的に

やれそうなことはないですかという話し合いの場を持つ。

私は子育てフォーラムという大きな名前です言っていたのですが、それはもう少しやりわりのものだったので、そうではなくて、この3つのことにかかわる団体に声をかけて集まってもらって、子どもが思いきり遊べる場所づくりをしようと思っているのだけれども、実際には遊べていないから、もう少し規制を緩和できないかとか、そういうことの話合いをしながら、実際に遊べる場所づくりをしていきたいと思いますということですか。

委員 それを個々に引っ張り込むのではなくて、まず全体の前でやってしまう。あの町内会はどうもできそうだから個々にどうという個々の話をやるのではなくて、町内会に分け隔てなくやる。そこで反応を見て、ではこの町内会とやったらいいかなと思います。

事務局 だとしたら、次回にその中身をもう少し詰めて、もっと後半でもいいかもしれないです。焦らなくてもいいような気がします。

委員 そういうことを含めて、やはり議論したほうが良いと思います。

部会長 では、とりあえず地域での子育て、子どもの居場所づくりというのは、今の2つは前半で終わりそうなことなので、後半はこのことを大事にしていくような形で計画を立てていくということで大丈夫でしょうか。

各委員 異議なし

(2) 区民会議フォーラムについて

部会長 それでは、区民フォーラムのことについてお願いします。

事務局 3月6日のフォーラムの大まかな方向は全体会議で話をまとめたのですが、細かい内容は幹事会でということをお願いしていたと思います。ご意見の中には、子どもたちに何かをやってもらったらどうかということもありましたが、時間も限られていることと、子どもたちに出てもらおうとすると、それなりの準備をしていただかなければいけないということで、落語が一番いいのではないかということになりました。喜楽亭笑吉さんに、今のところでは「長屋の花見」という演目を想定して、その導入部分に区民会議の話も盛り込みたいと伺っていますので、その方向で行きたいと思います。

それからパネルディスカッションについては部会から2人ということで朴部会長にはお願いしているのですが、もう1人、どなたか部会から出ていただきます。コーディネ

一ターは、何人かピックアップした中で幹事会で佐谷さんがいいのではないかということをお願いして了解を得ました。もう1人はできれば職務代理者の方というお話です。

副区長 深澤委員ですね。

事務局 では、深澤委員の了解を得なければいけないのですが、きょうはお休みなので。

副区長 深澤委員に受けてもらうけれども、だめだったらというのだけ決めておいていただければと思います。

委員 鈴木委員はいかがですか。

事務局 鈴木委員は多分難しいのではないかと思います。

委員 僕は苦手ですから宮崎委員にお願いできますか。

委員 私は、3月6日に町会のほうのことがあるのでごめんなさい。

事務局 では、まず深澤委員に確認します。

部会長 よろしいですか。

各委員 異議なし

(3) その他

部会長 最後に何かありますか。

事務局 参考3に、地球環境問題啓発ポスターコンクール作品募集ということで、環境部のほうから継続してやっていきたいという案件も出ているのですが、23年度についてはこういう形で取り組みますというご案内です。

それから、第1回かわさき公共CMコンクールというのがございまして、川崎区からも、川崎区まちのえんがわというCMをつくりまして、流れる予定になっていますので、そのご案内です。

それから、区民会議フォーラムについては、出席していただく方は決まったのですが、できれば関係団体や知人の皆様をお誘いいただいて、区民会議の認知度向上も併せて図

りたいと考えています。今、手元に5、6枚チラシを置かせていただいていると思うのですが、もっと配れるという方がいらっしゃいましたら事務局のほうに声をかけていただければ何枚でもお渡ししますので、ぜひよろしくをお願いします。

部会長 事務連絡はありますでしょうか。

事務局 次回の部会の日程は、今度フォーラムもありますので、必要があればまた部会長に相談をさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

部会長 5月だと忘れてしまうので、忙しいとは思いますが、3月の終わりか4月くらいにもう一回ぐらいしたほうが良いと思います。

事務局 それでは、3月6日のフォーラムで新しい小泉委員が子ども部会へ入るのが承認される予定なので、小泉委員の紹介も兼ねてそのスケジュールでできるのであれば、きょう話し合った内容を全体会で報告できるような形で審議をしていただくという形でもよろしいと思います。

事務局 では、3月6日以降に日程調整させていただきます。

副区長 <お礼を述べる>

3 閉 会

朴部会長 ありがとうございました。

午後 3時32分 閉 会